

J.LEAGUE NEWS

Vol. 176
29 Oct. 2010



編集・発行
社団法人日本プロサッカーリーグ
ホームページ <http://www.j-league.or.jp>

スポーツで、もっと、幸せな国へ。Jリーグ百年構想



J1リーグ戦第26節、アルビレックス新潟vs名古屋グランパス

クライマックスが近づく2010シーズン

J1リーグ戦は名古屋グランパス、J2リーグ戦は柏レイソルがリードして終盤戦へ

Jリーグの18年目のシーズンも、クライマックスが近づいてきた。注目されるJ1リーグ戦の首位争いは、10月24日に第27節を終えた段階で、初優勝を目指す名古屋グランパスが第18節以来のトップをキープ。これを、Jリーグ史上初の4連覇に挑む鹿島アントラーズ、2005シーズン以来の優勝を狙うガンバ大阪などが追っている。リーグ戦の3位以上のチームに与えられるAFCチャンピオンズリーグの出場権争い、同じく15位以上を目指すJ1残留争いも絡み、予断を許さぬ戦いが続く。J2リーグ戦は、同24日の第31節を終えて柏レイソルがリード。2010 Jリーグヤマザキナビスコカップ決勝も行われ、2010シーズンの終盤戦が白熱の度を増していく。

J.LEAGUE OFFICIAL SPONSORS



J.LEAGUE 100 YEAR VISION PARTNER



LEAGUE CUP SPONSOR



SUPER CUP SPONSOR



EQUIPMENT SUPPLIER



J.LEAGUE OFFICIAL SUPPLIER



J.LEAGUE OFFICIAL BROADCASTING PARTNER



Memories of Winners



Jリーグヤマザキナビスコカップは、Jリーグ開幕の前年である1992年にスタートしたリーグカップ戦。現在はJ1リーグに所属するチームが参加する大会として開催されている(1995年は開催なし)。今年10月10日の準決勝第2戦で通算1,000試合を達成するなど長い歴史を誇り、数々の名勝負、ドラマを生み出してきた。今年もまた、J1の18チームが11月3日(水・祝)に国立競技場で開催の決勝を目指し、しのぎを削ってきた。2010 Jリーグヤマザキナビスコカップ決勝の開催に合わせ、過去の大会のリーグカップウィナーを振り返ってみた。



1992 ヴェルディ川崎

【決勝】ヴェルディ川崎※ 1-0 清水エスパルス ※現在の東京ヴェルディ ©Agence SHOT



1997 鹿島アントラーズ

【決勝】鹿島アントラーズ 2-1、5-1 ジュビロ磐田 ※決勝はホーム&アウェイ ©J.LEAGUE PHOTOS



1993 ヴェルディ川崎

【決勝】ヴェルディ川崎 2-1 清水エスパルス ©J.LEAGUE PHOTOS



1998 ジュビロ磐田

【決勝】ジュビロ磐田 4-0 ジェフユナイテッド市原※ ※現在のジェフユナイテッド千葉 ©J.LEAGUE PHOTOS



1994 ヴェルディ川崎

【決勝】ヴェルディ川崎 2-0 ジュビロ磐田 ©J.LEAGUE PHOTOS



1999 柏レイソル

【決勝】柏レイソル 2-2(PK5-4) 鹿島アントラーズ ©J.LEAGUE PHOTOS



1996 清水エスパルス

【決勝】ヴェルディ川崎 3-3(PK4-5) 清水エスパルス ©J.LEAGUE PHOTOS



2000 鹿島アントラーズ

【決勝】川崎フロンターレ 0-2 鹿島アントラーズ ©J.LEAGUE PHOTOS

2001 横浜 F・マリノス

© J.LEAGUE PHOTOS



【決勝】ジュビロ磐田 0-0(PK1-3) 横浜 F・マリノス

2006 ジェフユナイテッド千葉

© J.LEAGUE PHOTOS



【決勝】鹿島アントラーズ 0-2 ジェフユナイテッド千葉

2002 鹿島アントラーズ

© J.LEAGUE PHOTOS



【決勝】鹿島アントラーズ 1-0 浦和レッズ

2007 ガンバ大阪

© J.LEAGUE PHOTOS



【決勝】川崎フロンターレ 0-1 ガンバ大阪

2003 浦和レッズ

© J.LEAGUE PHOTOS



【決勝】鹿島アントラーズ 0-4 浦和レッズ

2008 大分トリニータ

© J.LEAGUE PHOTOS



【決勝】大分トリニータ 2-0 清水エスパルス

2004 FC東京

© J.LEAGUE PHOTOS



【決勝】FC東京 0-0(PK4-2) 浦和レッズ

2009 FC東京

© J.LEAGUE PHOTOS



【決勝】FC東京 2-0 川崎フロンターレ

2005 ジェフユナイテッド千葉

© J.LEAGUE PHOTOS



【決勝】ジェフユナイテッド千葉 0-0(PK5-4) ガンバ大阪

2010



2010 J.LEAGUE YAMAZAKI NABISCO CUP FINAL



ジュビロ磐田 vs サンフレッチェ広島

2010年11月3日(水・祝) 14:05キックオフ
国立競技場

2010 Jリーグ ヤマザキナビスコカップ 決勝のカードは磐田vs広島。 準決勝第2戦で大会通算1,000試合を達成

ホーム&アウェイによる2010 Jリーグヤマザキナビスコカップ準決勝が9月29日、10月10日に行われ、ジュビロ磐田とサンフレッチェ広島が、11月3日(水・祝)に国立競技場で開催される決勝への進出を果たした。

ホームの第1戦で川崎フロンターレに0-1と敗れた磐田は、アウェイの第2戦で奮起し、DF大井健太郎、FWの山崎亮平、成岡翔の得点で3-1の勝利。対戦成績を1勝1敗として、2試合合計スコアで3-2と上回った。ヤマザキナビスコカップ決勝進出は01年以来、9年ぶり5度目。磐田の柳下正明監督は「(選手たちが)勝ちたいという強い気持ちを出してくれた結果。決勝も持てる力を発揮すれば、いい結果が出せると思う」と、クラブにとって1998年以来、12年ぶり2度目となる優勝を

目指す決勝を見据えた。

広島はホームの第1戦で清水エスパルスを2-1と下し、1点のリードでアウェイの第2戦に臨んだ。清水の猛攻を受けたが、MF山岸智が先制。清水の反撃を1点に抑えて1-1の引き分けに持ち込み、対戦成績を1勝1分としてクラブ史上初のヤマザキナビスコカップ決勝へ駒を進めた。初優勝を狙うペトロヴィッチ監督は「ファイナルは特別な舞台。われわれはその舞台で、勝利をものにしたい」とタイトル獲得への強い意欲を述べた。

また、準決勝第2戦において、ヤマザキナビスコカップの通算試合数が1,000試合に達した。これは、Jリーグ初の公式試合として92年9月5日にヴェルディ川崎(現 東京ヴェルディ)vs清水の対戦によって国立競技場で開催され

た'92 Jリーグヤマザキナビスコカップ開幕戦より、18年目での達成となった。

2010 Jリーグヤマザキナビスコカップでは、全席種についてチケットホルダー、ネックストラップ付きの決勝オリジナルデザインチケットも、期間限定で特設購入サイトを通して販売された。

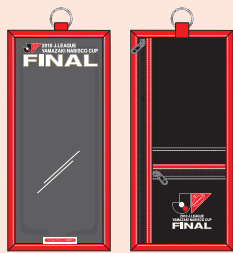
さらに、優勝クラブに贈られるヤマザキナビスコカップのトロフィーツアーを実施し、10月16日にはJ1リーグ戦第26節の広島vs磐田が行われた広島ビッグアーチ、同17~21日にはデオデオ本店(広島市中区)、同23日にはJ1第27節の磐田vs浦和が行われたエコパスタジアム、同24日には遠鉄百貨店(浜松市中区)に展示され、人々の注目を集めた。



12年ぶり2度目の優勝を目指す磐田(準決勝第1戦)



初優勝を狙う広島(準決勝第1戦)



オリジナルデザインチケットと、チケットホルダー、ネックストラップ



トロフィーツアーでは多くの入場者が足を止めて注目し、カメラに収めていた(広島ビッグアーチ)

決勝トーナメント

- 川崎フロンターレ
- 鹿島アントラーズ
- ベガルタ仙台
- ジュビロ磐田

【準々決勝】

①1-2

②3-1

【準決勝】

①1-0

②1-3

①1-2

②0-0



【決勝】
11月3日
(水・祝)
国立競技場

【準々決勝】

①1-0

②1-2

【準決勝】

①2-1

②1-1

①1-1

②0-0

- ガンバ大阪
- サンフレッチェ広島
- 清水エスパルス
- FC東京

※組み合わせの上、または左のチームをホームチーム扱いとする。(組み合わせの下のチーム：第1戦ホームチーム/同上のチーム：第2戦ホームチーム)
※準決勝の広島vs清水については、会場の都合により第1戦と第2戦を入れ替えて実施した。

準加盟

Jリーグ準加盟を目指すクラブ向け「Jリーグセミナー」を開催

Jリーグは10月8日、JFAハウスにて、Jリーグ準加盟を目指すクラブ向け「Jリーグセミナー」を開催した。このセミナーは、2006年より「Jリーグ準加盟クラブ」への申請を予定しているクラブの関係者を対象に、ホームタウンのあり方や、Jリーグ準加盟を目指す上で必要となる情報などを提供し、事前により良い準備を行うために、学習と情報交換を目的に実施している。

今回のセミナーには過去最多となる22組42名が参加。福島県、福島市、相模原市、沖縄県、沖縄県金武町と、自治体の関係者も初めて参加した。セミナーの冒頭では、Jリーグの大東和美チェアマンが「(準加盟は)クラブの努力だけでは難しい。行政、地域の皆さんの協力が必要。行政の方々の参加をたいへんうれしく思う」とあいさつ。参加者に対しては「J

リーグに上がりたいという意志だけでは、楽な道のりではない。強い意志を持って取り組んでもらいたい」とエールを送った。

続いて(財)日本経済研究所の専務理事でJリーグ理事も務める傍士銃太氏が、準加盟



過去最多となる出席者を集めて行われたJリーグセミナー

を目指すクラブの姿勢や実際に必要な活動について講演を行った。国内外のクラブ運営の例や地域に関する独自の調査データなどを基に解説し、「地域の皆さんに『自分たちのクラブ』という意識を持ってもらえば百人力」と締めくくった。

また、今年2月に準加盟が承認されたS.C.相模原(神奈川県社会人サッカーリーグ1部)の小西展臣 統括部長が「準加盟までの道のり・準加盟承認後のクラブづくり」と題して特別講演。クラブの成立から準加盟承認後の周囲の反応まで、順を追って話し、「(相模原)市と一緒に、町づくり、クラブづくりを進めていきたい」と今後の抱負を述べた。

このほか、準加盟アドバイザーとの質疑応答、ディスカッション、参加者相互のコミュニケーションの時間なども設けられた。

育成

2010年度 Jリーグ アカデミーコーチ研修会(女性)を開催



女性コーチが対象となったコーチ研修会はJリーグ初の試み

Jリーグは10月12日から15日の4日間、福岡県宗像市のグローバルアリーナにおいて、Jクラブのアカデミーに所属する女性コーチを対象とした「2010年度 Jリーグ アカデミーコーチ研修会(女性)」を開催した。参加したのは11のJクラブから12名。実際のコーチング指導のほか、対話トレーニング、ディスカッションを行うなど「言葉」の使用も重視された。

コーチング指導では、講師として参加した上野山信行 Jリーグ技術委員長が課題を指摘し、疑問を投げかけながら、各自のコーチングについて考えを深めるように進められた。同技術委員長は言葉について、「子どもたちはいつも、コーチの言葉を聞いている。それが

分からなかったら、いくらいい練習メニューをつくっても効果はない。的確な言葉で子どもたちを納得させて、自ら動くような話し方が大切」と重要性を指摘した。

女性コーチに限定した研修は、Jリーグとして初の試み。参加者の多くはJクラブのサッカースクールなどの部門に属する指導者だが、「初日に『コーチングには普及、育成、強化の区別はない。最高のものを提供しなければならない』と言われたのが、最もインパクトがあった」(川崎フロンターレの長澤忍コーチ)、「子どもにとって一番合っている言い方を、自分の中で見つけていきたい」(栃木SCの田代久美子コーチ)など、さまざまな刺激を受けた有意義な研修となったようだ。

日本サッカー協会、Jリーグ新役員披露パーティー



左から大東チェアマン、ザッケローニ監督、小倉JFA会長

日本サッカー協会(JFA)とJリーグの新役員披露パーティーが10月5日、東京都内のホテルで開かれた。JFAの小倉純二会長は「日本サッカーがさらに国際舞台で飛躍するためには、日本サッカー協会とJリーグが手を携え、優秀な選手を育て上げることが必要」とあいさつ。Jリーグの大東和美チェアマンも「日本代表の強化のためにも、トップリーグであるJ1のレベルアップに全力を尽くしていく」と述べた。また、埼玉県で合宿中だった日本代表のアルベルト・ザッケローニ監督も出席した。



左から鬼武健二(第3代)、川淵三郎(初代)、鈴木昌(第2代)、大東和美(第4代)の歴代Jリーグチェアマンも一堂に介した

第3回全国スポーツクラブサミットを後援

Jリーグは、10月19日に開催した理事会において、財団法人日本スポーツクラブ協会と全国スポーツクラブ連絡協議会が主催する「第3回全国スポーツクラブサミット」を後援することを決定した。本サミットは、1999年より全国に各種のスポーツクラブを普及・育成するための事業の一環として開催。11月13日(土)、14日(日)に国立オリンピック記念青少年総合センター(国際交流棟1階 国際会議室)で行われる今回は、総合型地域スポーツクラブ育成に関する基本的な考え方、ならびに具体的な事業実施方針について研究・協議を行う。

Jリーグオフィシャル番組「百年旅行」(BS日テレ) リニューアルのお知らせ

■番組名: 「百年旅行～Jリーグのある風景～」

※今回のリニューアルに伴い、サブタイトルが変更。

■放送時間: 毎週土曜日 10:30～11:00

■番組概要: 各クラブのホームタウンの魅力を発信するとともに、サッカー観戦以外の楽しみ方も提案し、ファン・サポーターならずともスタジアムに行きたくするような番組を目指す。具体的には、地元ならではのグルメや観光スポットはもちろん、ホームタウンでクラブと共に生きる人々や、クラブの地域貢献活動なども紹介していく。

Jクラブと歩む「地域」「ひと」

5

ヴァンフォーレ甲府

写真協力：ヴァンフォーレ甲府



クラブと共に活動している喜びが 町に活力を取り戻すエネルギーに



荒れ果てた畑が整備された

自分たちなりのサポート

甲府駅からJR・中央本線の特急で東京方面へ向かうこと約30分。初狩駅を過ぎ、大月駅が近づくと、左手に「頑張れ! ヴァンフォーレ」の旗がはためく農地が見えてくる。広さは約700平方メートル。今年の夏までは草木で荒れ果てていた土地だが、今は地元有志の手によって野菜畑に変わり、ブロッコリーやキャベツ、ハクサイといった野菜が間もなく収穫のときを迎える。

人手が離れたまま荒れ果てた農地を耕作放棄地と呼ぶ。山梨県の耕作放棄地率は全国でワースト2位。大月市を含め、かつて養蚕が盛んだった山梨県東部地域の畑は、特にその割合が高い。荒れ果てた土地をいかに活用するかは、県全体が取り組んでいるテーマ。広大な土地ではないが、Jクラブとファン・サポーターがかかわっているという点で、大月市内の一角にあるその野菜畑は、再生のモデルケースとなる可能性を秘めている。

「ヴァンフォーレ・ファーム」とも呼ぶべき畑の誕生のきっかけは、食育の重要性を唱えていたヴァンフォーレ甲府の佐久間悟GMのこんな言葉だった。「海外では、サッカーチームの強化は体づくりを考えるところから始まっている。日本のサッカークラブも、そこから強化を考えないと、世界に通じる選手は育たない」。

佐久間GMの考えを伝え聞いたのが「大月サポーターズクラブ」のメンバーである。大月市の職員が中心となって構成する私設の応援クラブは、ヴァンフォーレ甲府が初めてJ1リーグの舞台で戦った2006年に、12人の個人サポーターと20人の準会員で発足した。市職員の仲間を中心に08年に56人、10年に76人と年々、人数を増やし、アウェイゲームへのバスツアーや横断幕の作成、選手との交流会を主

催。クラブへのサポート活動を行い、交流を深めてきた。

「スタンドから応援旗を振って声援を送ることに加え、何か自分たちなりのサポートの方法があるのではないかと考えていた」と語るのは白鳥公勇・大月サポーターズクラブ会長。「野菜を育てて選手に食べていただくことも、クラブをサポートする方法の一つ。野菜の栽培を通じて、食物を育てる喜びや食べることの大切さを子どもたちに教えることもできるし、お互いにとってメリットのある活動だと思った」。佐久間GMの考えに賛同したクラブのメンバーは、行動を起こした。



白鳥公勇氏

大きなツキを野菜に託して

8月11日、大月市の石井由己雄市長、ヴァンフォーレ甲府の海野一幸社長らが市庁舎に会い、本格的な活動がスタートした。ヴァンフォーレ甲府の栄養士や、山梨県富士・東部農務事務所の職員のアドバイスを受け、ブロッコリー、キャベツ、ハクサイといった野菜の栽培が決まった。活用する耕作放棄地は、サポーターズクラブの友人が所有している土地。草木で覆われていた畑をサポーターズクラブの仲間が集って草を刈り、耕し、農地にならした。

ポットに種をまいて苗をつくり、畑に植え付けたのは、サポーターズクラブ会員とその子どもたち。食育活動も兼ね備えるため、種まき、発芽、草取りといった栽培管理の記録、観察日記をつけながら、安全な野菜づくりに汗を流した。

食育推進活動が始まってから、サポーターズクラブの会員に生まれた変化がある。それは、スタジアムで声援を送り、勝敗に一喜一憂するのは異なったクラブとのつながりを感じ始めたことだ。白鳥会長は「野菜づくりを通じて、クラブや選手との距離が近づいた気がする。手を取り合って、共に活動しているという喜びを多くのメンバーが感じてい



大月サポーターズクラブのメンバーたち

るのではないか」。11月7日、ホームの山梨県小瀬スポーツ公園陸上競技場で行われるギラヴァンツ北九州戦は「大月市サンクスデー」と銘打たれており、栽培した野菜をクラブにプレゼントする予定となっている。今後も、タマネギやジャガイモなどの野菜を育て、選手の食をサポートしていく予定だ。

ヴァンフォーレ甲府は昨年、J2リーグで4位。わずか勝点1差でJ1昇格を逃した。白鳥会長は「サッカーというスポーツには運、ツキというのが大切。大月という地名は『大きなツキ』という語呂をかけられる。大きなツキを野菜に託して、選手の活力源をプレゼントしたい」と意気込む。食育推進活動の根底にあるのは「自分たちが住んでいる町を良くしたいという思い」（白鳥会長）。Jクラブと手を携えることで、その思いは年齢、性別の壁を超え、町に活力を取り戻すためのエネルギーに変わっていく。

(山梨日日新聞社 伊藤 直樹)



食物を育て、食べることの大切さも学ぶ子どもたち

Jリーグニュースでは146号(2008年3月28日発行)から165号(09年10月30日発行)にかけて「スポーツでつくる幸せな国『Jリーグ百年構想』へのアプローチ」と題し、Jクラブによる地域に根差すためのさまざまな取り組みを連載した。では、こうしたJクラブの存在、活動に刺激を受けたり、触れるなどして、地域とそこに暮らす人々はどう変わったのか。新たなシリーズでは、Jクラブと手を携えながら共に歩む人々や、その活動を紹介。第3回となる今回は、ヴァンフォーレ甲府、徳島ヴォルティスにスポットを当てた。



写真協力：徳島新聞社

6

徳島ヴォルティス



全国への発信や地域のにぎわいに存在感を増すプロサッカークラブ

運動会にクラブマスコット

2010年9月19日、徳島県松茂町にある喜来小学校グラウンド。喜来幼稚園と小学校の合同運動会に参加した徳島ヴォルティスのクラブマスコットのヴォルタクんとティスちゃん、そしてボールくんが子どもたちと一緒にダンスを披露した。

保護者たちの座る観客席に向かい、子どもの手を取ってポーズを決めるヴォルタクン。子どもたちの笑顔も弾ける。保護者は「こころ」とばかりに、カメラのシャッターを押したり、ビデオを回したり。

明るい笑顔で、歓声を上げた山川萌花ちゃん(5歳)は「楽しかった。ヴォルタクンたちのキャラクターがかわかった。ヴォルティスの試合を見たことがあるけど、もっと見たくなった」と大喜び。

披露したダンスはクラブオリジナルの「進めポンボコ倶楽部」。マスコットに親近感を持ってもらおうと、クラブが考案した。6月の徳島ヴォルティス・ファン感謝祭でお披露目された「進めポンボコ倶楽部」を喜来幼稚園関係者が見たことがきっかけになり、運動会へのクラブマスコット参加が実現した。

喜来幼稚園の4、5歳児57人は運動会に向け、2週間以上もほぼ毎日にわたって練習に汗を流した。幼稚園の小出恵子園長は「子どもの体力低下が社会問題にもなっている。クラブマスコットとのダンスを通じてサッカーを含めたスポーツへの興味が深まれば」と話す。

年々深まる行政との連携

2005シーズンにJ2に入会した徳島ヴォルティス。1年目は9位と健闘したが、2年目からは

3年続けて最下位に。09年に9位に再浮上し、地域での存在感も増している。

その存在感を示すように、09年8月1日の愛媛FCとのホームゲーム「四国ダービー」では、入場者がクラブ史上最高の1万3473人をマーク。2010シーズンのホームでの四国ダービーでも、再び1万人を超える1万1115人の入場者を集めた。

徳島ヴォルティスのホームタウンは徳島、鳴門、美馬の3市と板野、松茂、藍住、北島の4町を中心とする全県。クラブが歴史を重ねると同時に、各地域とのつながりも密になっている。徳島県が事務局を務め、ホームタウン協議会をつくり、ホームゲームでは各種イベントを開催する。

各地域の物産品販売やファミリーを対象にした観戦イベントには特に力を入れており、これまでに「とくしまバーガー祭り」や試合前のピッチを利用した「少年団サッカー大会」などを行った。また各市・町民デーを設けてスタジアムに無料招待し、ファミリー層の集客促進を図っている。

各市町の幼稚園や小学校などへの訪問も積極的で、ホームゲーム前には3、4カ所を訪ねてサッカーを通じた交流を深めている。試合前のピッチを利用して、少年サッカークラブを招いた前座試合を組んだこともある。



吉野信吾氏

ホームタウン協議会の事務局を担当する徳島県にぎわいづくり課の吉野信吾さんは「全国への発信力や地域でのにぎわいづくりの面で、プロサッカークラブの存在は魅力にあふれている」と強調

する。

徳島県の農林水産物をPRするトラック「新鮮なっ!とくしま」号が登場したこともある。今年8月1日のホームゲーム、柏レイソル戦。試合前イベント来場者には、鳴門市の特産品の一つである梨が振る舞われたほか、鳴門わかめの試供品配布もあった。

健康づくりにつながる活動

徳島県は毎年のように人口10万人当たりの糖尿病死亡率が全国ワースト上位にランキングされている。吉野さんは「運動促進、健康づくりの視点でも徳島ヴォルティスとの連携を密にしていきたい。スポーツに対する意識を高めるきっかけになるはず」と将来ビジョンを示す。生活習慣病予防のために編み出された阿波踊りをもとにした「阿波踊り体操」が、介護予防事業の一環として試合前やハーフタイムに、ファン・サポーターらと共に実施されたこともある。

今シーズンのホーム最終戦(11月28日、対カターレ富山)に向けては小松島市中田町にある小松島西高校の生徒が集客イベントを企画している。徳島大学や徳島文理大学の学生も協力する。地域色あふれる飲食屋台や体力測定コーナー、生徒によるファッションショーなどが企画案に挙がっている。

「昨年より今年。今年より来年」。徳島ヴォルティスは地域のさまざまな層と結びつき、右肩上がり存在感を増している。プロスポーツが成立しにくいといわれる地方で、徳島ヴォルティスの挑戦は続く。

(徳島新聞社 滝川 英展)



子どもたちと「進めポンボコ倶楽部」のダンスを踊るヴォルタクン



徳島の選手たちもクラブプロ入りの法被で阿波踊りに参加

「2009-2011 Jリーグ GM講座 セッション11 (海外セッション)」

イングランドで学んだリーグ、クラブの運営

Jリーグは8月30日から9月7日にかけて、「2009-2011 Jリーグ GM講座 セッション11 (海外セッション)」を実施した。Jリーグの佐々木一樹常務理事を団長に、GM講座の受講者12名が参加。英国のリバプール市に滞在し、リーグ、クラブの運営に関するさまざまなジャンルの専門家の講義を受けた。また、イングランドのプレミアリーグのトップクラスのクラブと共に、Jクラブと同様の経営規模、地域密着に努めるクラブも訪問し、スタジアムなど各種施設を視察した。

Jリーグはクラブ数の拡大、各クラブの置かれている環境の相違など、複雑化するクラブ経営に資する専門的知識を備えた人材を育成するため、1999年より随時、GM講座を開催してきた。2008年には、より実践的な講座としてリニューアルされた。09年からは受講期間を2年へ拡大し、将来のGM候補としてプロサッカークラブの経営に必要とされるマネジメントスキルを身に付けている。

今回の海外セッションも、クラブ経営にかかわる多様な課題に対処しなければならないGMという職種にふさわしく、「コミュニティー活動」「ファイナンス/アカデミー」「チケットング」「クラブ事業」「メディカル」「サポーター体験」「マーケティング」「ユース育成」など講義内容は多岐にわたった。

プレミアリーグ(実質1部)以外のチームで構成されている実質2~4部リーグを統括する「フットボールリーグ」(FL)では、マーケティングやア



トランメアのラーニングセンターで地域密着活動の話聴く

カデミー活動の講義を受けた。年間総入場者、シーズンチケットホルダー、放送権料など拡大傾向にあるFLだが、大衆紙とのタイアップで紙面に入場料が割引になるクーポンを付けるなど、さらなる集客への努力が行われている実情などを聴いた。

FL全体の選手育成活動では、「アカデミー」が単なる名称ではなく、施設、コーチ資質、指導時間など独自の基準をクリアした組織に与えられる呼称であるという。さらに「センターオブエクセレンス」と呼ばれる組織もあり、アカデミーへの昇格、つまり有能な選手の獲得に努めるため、環境整備に力を入れている。

また、欧州チャンピオンになること5回、練習にGPS(全地球測位システム)機能を利用したジャケットを用いて選手の体調管理を行う、プレミアリーグきってのビッグクラブ、リバプールFCを訪問し、受講やトレーニング施設見学を行った。トップリーグのクラブでも、新たな入場者の開拓や選手育成に不断の努力を続けているという現状に、佐々木常務理事は「われわれもそれ以上の努力をしなければいけない、という気持ちを持った」と語る。

一方では、FLのリーグ1(実質3部)に所属するトランメア ローバズFCも訪問。近隣にはプレミアリーグの強豪クラブがひしめく中、海外をマーケットとせず、地道にホームタウン活動に取り組みなど、Jクラブにとっては大いに参考となるクラブだ。リバプール市から車で30分ほど

のところに位置するバーケンヘッド市をホームタウンとするこのクラブでは、地域に密着した活動に触れた。自治体からの助成を受けたラーニングセンターでは、スポーツとの社会的一体性、健康、教育をテーマに、さまざまな活動を実施。クラブ内外の子どもたちが勉強したり、中高年の健康増進の機会などを提供しているという。

受講者は移動日を除くほぼ毎日、振り返りシートを作成と提出を行い、当日の見聞やそれに対する感想や意見を書き留めた。帰国の途に就く前日には、リバプール大学大学院MBA(経営学修士)サッカー産業コースのダイレクターを務めるローガン テラー博士から「フットボールの歴史とサッカービジネスの今後」についての講義を受けた後、同博士から「Jリーグ GM講座海外セッション」修了書が各受講生に授与された。

Jリーグ GM講座では、これまでの講義に加え、今回の海外セッションを通して得た情報を、Jクラブの課題解決のベンチマークとして活用する。今後はアクションラーニングセッションに入り、クラブの抱えている課題を分析し、取得した情報を基に解決方法を導き出す。佐々木常務理事は「クラブの経営に携わってこうという人たちが、本場のリーグやクラブを視察し、イメージを膨らませて取り組むことは非常に有意義だと思う。それぞれがこの経験をクラブに持ち帰り、自分たちのクラブの実情を考慮しながら役立ててほしい」と期待を述べた。



世界最高峰ともいえるリバプールFCのアカデミー施設



テラー博士の講義。クラブの身の丈経営の重要性を強調した



トランメアのホームスタジアムでクラブ会長、市長夫妻らと記念品を交換し記念撮影

参加者一覧

氏名	所属	役職
三上 大勝	コンサドーレ札幌	強化部 部長
橋本 毅夫	ザスバ草津	チーム統括部 グループマネージャー
岩澤 明彦	横浜 F・マリノス	ホームタウン・普及部 普及ふれあい事業部 部長
太田 博喜	横浜FC	営業グループ 取締役
庄子 春男	川崎フロンターレ	取締役
望月 達也	清水エスパルス	強化育成本部 部長、強化部 部長
長谷川 均	カタレ富山	事業部 営業推進部 部長、副本部長
小椋 伸二	名古屋グランパス	チーム統括部 強化担当部長
山田 恵司	サンフレッチェ広島	事業本部営業部 部長
富本 光	徳島ヴォルティス	取締役
下田 功	アビスパ福岡	ホームタウン推進部 部長
横手 敏夫	ギラヴァンツ北九州	代表取締役社長
佐々木 一樹	社団法人 日本プロサッカーリーグ	常務理事 (団長)
渡邊 さや香		HRディベロップメントグループ (全体統括)
橋村 将来	株式会社博報堂DYSスポーツマーケティング	事業戦略部 マーケティング・情報デザインチームプランナー (記録)



「Jリーグニュース」は100%再生紙を使用しています。